



時事評論家 増田俊男

## 金暴落、裏と表の立役者

アメリカ時間4月12日(金)と15日(月曜)の金価格(NY)の下げは2日で14%、1,500ドル台から一気に1,300ドル台に暴落した。

私は「ここ一番!」と「目からウロコのインターネット・セミナー」(4/22更新)で暴落を仕掛けた「犯人」(裏)について詳しく述べた。

2011年8月30日にモナコで行われた欧州貴族の秘密会議で決まったことが実行されているに過ぎない。

先週金曜日(12日)から発送している「小冊子」(Vol.45)で、「2014年になってFRB(連邦準備理事会)が金融緩和の出口を模索し始めると金は急落する」と述べた。FRBの緩和出口は2014年に決まっているが、「これから数週間以内」と思わせる「表」のマニピュレーション(市場誘導)があった。

今回の暴落は「裏」の仕掛人をサンフランシスコの連銀総裁のMr. John Williamsなどが「表から」支援したので大暴落になったのである。

氏の暴落直前のコメント：“I expect we will meet the test for substantial improvement in the outlook for the labor market by this summer. If that happens, we could start tampering our purchase then.”(今夏までに労働市場がすこぶる改善されるかどうかの見通しがやがて分かる。もし改善されれば、(国債)購入を考え直すことになる)、(年内緩和を止めるつもりなどさらさら無いのに、まるで数週間の内に緩和を打ち切るような話)である。

(今回の「小冊子」(Vol.45)でアメリカ経済の成長見通しは詳しく述べている)。

Mr. John Williamsと共に「表」のGoldman Sachs、Bank of America、Morgan Stanleyが一斉に2013年のGDPは3%になり2009年の「3倍」になるなどとの驚きの予測を発表した。驚くべきアメリカ経済の成長は驚くほど金価格を下げる。

上記三行はいずれも二カ月前には「金は2,000ドル、3,000ドル、5,000ドルになる」などと言っていた張本人達である。それが一転して「裏の仕事」を支援する(金価格を下げる)。

「株には配当があるが金にはないとか、金には利息が付かない」などと言っている内は金価格の上昇はない。

今金価格が戻ってきたが、慌てて飛びつく投資家は足をすくわれる。

お約束した通り、「ここ一番!」と「目からウロコのインターネット・セミナー」で「金が急騰する一日前」に買い時をお知らせする。

## 本物になるアメリカ経済(今回の「小冊子」参照)

4月26日午前中(アメリカ時間)、アメリカの第1四半期の年間換算成長率(GDP)が発表されるが、上記三行の見通しのように2009年の3倍、3%前後の上昇になり市場に驚きを与える。それはとりもなおさず金価格急落を意味する。だから金はまだ下がる。

円も、今回のG20で黒田異次元緩和が理解されたことになっているので(本当はそうではないが)短期間100円以下に下がる。

株価は、「下がれば買い」が続いているが、高値を抜くだけの材料不足。

しかし26日のアメリカのGDPと驚くべき財政赤字の急減少でNYは高値を抜き、ニッケイも従うことになる。

### コピー対応中! 増田俊男の小冊子 Vol.45

#### 「黒田異次元、異常金融緩和とアベノミクスの限界 枯れ木に無駄に水撒く無謀な日銀。」

現在増田俊男の小冊子(Vol.45)が大好評の為完売となりコピー対応中となっております。黒田日銀の勝ち目無き大博打!これから起きるバブル狂乱で一攫千金。株、為替、土地、金等ゲームの「上手な遊び方」。お得な年間購読も受付中!お申込みについては増田俊男事務所(Tel: 03 3955-6686、HP: [www.chokugen.com](http://www.chokugen.com))まで。